

栃尾の繊維産業について「アイデアシート」意見等一覧

区分	検討内容	具体的なアイデアなど(各委員から出された意見等)
繊維産業の活性化	消費者として ・どのような製品があったらよいか ・服地以外で織物が生かせるものはないか	キャンプブームなのでアウトドア等で使えるおしゃれなテーブルクロス
		Tシャツやパーカーに自分がデザインしたマークや文字などを気軽に作成できる施設またはアプリ
		キャンプ・アウトドア向けの機能性をもった製品(難燃・通気・軽さなど)道院高原と相乗効果が見込める?
		まずは栃尾の織物がどのような分野で使用されているか認識することが必要。大部分がファッション分野だと思う。今一度、産地の立ち位置を見直し、栃尾産地の特徴(強みが)が何なのか考えて開発をすることが大切
		小売で買えるちょっと変わった生地
		オリジナル(セミオリジナル)オーダー
		シャツ地のように日常的に着るような製品で、少し高級感のあるようなものを栃尾製品として生産・PRできたら良いと思う。実際に通信販売で栃尾産と表示されているものを見たことがあるが、そのようなことは少ない
		栃尾で作った製品を見てもらったり、栃尾の歴史ある製品を作り続ける
		地味に着物人気はある。手に入りやすい価格の生地があり、それを広めていくとよいのではないか
		栃尾をズボンの町として売り出す。織物(反物)としてはなかなか直接消費者には売れない。ズボン生地に栃尾織物は最適である。栃尾織物を使ったズボン(製品)を作る会社(工場)を栃尾に作るか企業誘致し、若者の就業にもつなげる。シャツに特化しても面白い
		製品ではなく、布で計り売りがあればよいのではないか
		壁紙・表具内装・クッションカバー(和モダン調の製品)ハウスメーカーや工務店・インテリアショップなどと連携する。
		トートバッグ、エコバッグ、小物入れ、クッション、座布団など日常で使うもの(栃尾ショップ)
		インテリア系(クッションやチェア、ソファーなどのカバー、ファブリックパネルなど、季節で簡単に着せ替えができる季節感を感じる華やかなもの)
		カーテン、インテリア、家具の表装、ペット用品
布地の靴を作る:靴の底以外は布地で作る。いろいろな織物のデザインの強みを生かす。また多品種、小ロットの製造に得意な栃尾織物である。軽くて丈夫な靴、洗える清潔な靴、おしゃれな靴、室内で履く医療用の靴などを作る		
バッグ、リュック、カーテン、抱っこひも、クッション、座布団カバー、こたつ布団上掛け		
柄をうまく利用したぬいぐるみ。小物づくりの作家さんに栃尾の織物を使ってもら		

栃尾の繊維産業について「アイデアシート」意見等一覧

区分	検討内容	具体的なアイデアなど(各委員から出された意見等)
	人材不足や技術の継承について ・繊維産業のイメージアップのためにできることは何か ・若者の就業に結び付くような取組み	個々の企業や産業に活気が戻れば、自然と人材は集まってくると思う。まずは、適性の工賃分析、競争力のある商品を開発することで受け身のビジネスから提案型のビジネスへ変えていくことが魅力のある企業(産業)となり、雇用へ繋がると思う
		服飾専門学校等に生地を提供し関係を作り、学校関連でイベント、若者のSNSによる宣伝効果を狙う
		有名芸能人(重要)から繊維産業の大使になってもらう
		技術力アップのために取り組んでいる研究など各企業の取り組みや、取引先製品の公開
		地域が連携してものづくりをしていることをPR(やっているのであれば)
		栃尾の繊維産業に関わっている方には、業界としての地域貢献に、もっと取り組んでほしい。繊維産業への若い方の就業が少ないと聞くが、業界として努力する以外ないのではないか
		栃尾の繊維が見られる場所があるとよい
		おりなすなど広い場所に手織機械を集め、経験豊かな年配者から未経験の若い人を集め、実際に織る所を見せたり、製品を作り販売する。DVDなどが見れると良い
		ニット製品をトチオーレで栃尾の人たちに販売。織物組合に市から補助金を出し、半額で売る。
		若い人の「こんな店を持ちたい」「こんな服を作りたい」「紬を織ってみたい」などの販売やデザイン、政策などを地域でバックアップする。空き家、空き店舗、空き校舎などの貸し出しと、そこを拠点としたSNSを活かしたオンライン販売やデザイン工房、「栃尾紬」手織り生地作りなどの支援
		栃尾製生地を使った製品を創作し、販売する動きが栃尾地域にあれば地域外への自信につながると思う
		製品デザインを小・中・高校生から広く募集する。(夏休みの宿題とかで)デザインコンクールを継続的に開催することで若いうちから繊維業と携わる機会をもうける
		若者の就業に結びつくような取組みを行っていることのPR(やっているのであれば)
		積極的な技術継承
		織物だけでは直接消費者に売れない。栃尾織物を使った品物(製品)の売れ筋を企画、デザイン、販売までを行う頭脳集団を立ち上げる。繊維産業の町の頭脳を結集し、栃尾発アパレル産業を目指そう
		栃尾地域の若い人から意見を聞いたり、考え方などを話し合ってみる
		栃尾高校と連携により、生徒が仕事としての楽しさを学ぶプログラムを推進する。繊維関係の学習や工場での体験学習など。中学生職場体験の積極的な受け入れ。
繊維離れ、高齢化等で継承は難しい。若者につながるには小学生、中学生の頃より繊維の話を通り繰り返して行く		

栃尾の繊維産業について「アイデアシート」意見等一覧

区分	検討内容	具体的なアイデアなど(各委員から出された意見等)
	<p>「何でもできる」という強みを生かす</p> <p>・産地としての知名度を上げるためにできること</p>	<p>栃尾の業界は、繊維に関して「何でもできる」ということを聞くが、もっとPRして地域の方がわかるようにしてほしい。製品について「栃尾産」という表示を目にすることがない。大手の注文の中でやっているケースが多いと聞くが・・・</p> <p>栃尾でしかできない物を作る。例えば景虎を題材にしてみたらどうか。</p> <p>栃尾の繊維業としてできる「なんでも」とは何かを明確にし、各社ごとにバラバラになっている技術を産地として一つに見せたり、「なんでも」の技術を見て理解してもらうための製品(サンプル)づくりなど</p> <p>もっと気軽に 体験・見学できる仕組みづくり</p> <p>「なんでも」を生かした 特殊加工などに特化した技術を見せる織物づくり</p> <p>「なんでも」をマッチングさせる仕組みづくり</p> <p>産地単位で営業。産地として出してくれるアパレルブランドと組む</p> <p>栃尾の織物(商品、技術)のどのようなところが受け入れられているか、自信を持って提案できるものを選定し、地域全体が誇りと感じていただき町起こしに利用してもらうのが理想</p> <p>長岡市内の学校・官庁関係ほか制服・体操着などすべて栃尾製にする。かっこいい・かわいいデザインを採用する</p> <p>生地意外な利用方法(いらぬ服などを使った)をSNSにアップする</p> <p>産地の知名度アップは企業が丸となり、取り組む必要があると思う</p> <p>服飾系の専門学校、高校等ファッションを仕事しようとしている若者たちにターゲットを絞る ・サンプル図書館 ・モード系の書籍・織物に関する資料、歴史がわかる展示室を作る ・ネット配信(服を作る為には栃尾に行かなければならないとなるように) ・布づくりのスペシャリストとして服飾のスペシャリストに向けての情報発信</p> <p>日本ダサイ布コンテスト:ダサイ布をあえて作る。絶対使いたくない布を選ぶ。ダサ布ファッションショー</p> <p>栃尾の布地を使ったソーイング教室や大会の開催(栃尾美術館にも来たキャシー中島さんや洋輔さんを招いたりできるといいし、三浦百恵さんなども呼べたらいい)</p> <p>栃尾の織物・手作り作品発表会:消費者は買ってすぐ使えるものが欲しい。そこで栃尾の織物で作品をつくってもらい、「おりなす」で発表、即売会を行う。</p> <p>手織の布で作った座布団などを販売する</p> <p>産地のブランド化</p>

栃尾の繊維産業について「アイデアシート」意見等一覧

区分	検討内容	具体的なアイデアなど(各委員から出された意見等)
	SDGsの取組	<p>持続可能な開発のためにできる内容で、栃尾のオリジナルニット製品を作ってみてはどうか</p> <p>産業で発生した廃棄物を、新たなものへ変換する施設や企業内リサイクルを推進する</p> <p>学生を対象としたエコバックの制作体験</p> <p>古着回収ボックスの増設(繊維の町だからこそ多く設置していることを外部へアピールする)</p> <p>行事を行うごとにアピールスペース(掲示板でもよい)を作り、多くの方の目に止まるようにしていく</p> <p>産学官の協働:長岡市内の大学や高等専門学校との共同研究を進め、SDGsなども視点に入れたこれからの新しい繊維を開発する(企業が求めるものを示し、学校が開発する。行政がそれを支える)</p> <p>栃尾てまり品評会全国大会の開催:栃尾てまりはもともと繊維の残糸で古くから栃尾で作られてきた。SDGsの取り組みと地域おこし、まちづくりにつながる。</p> <p>栃尾てまりを栃尾の糸で作る。</p>

栃尾の繊維産業について「アイデアシート」意見等一覧

区分	検討内容	具体的なアイデアなど(各委員から出された意見等)
まちづくりへの活用	栃尾紬などの伝統的な繊維文化の伝承 ・地域住民に織物の歴史を知ってもらう ・織物産地としての栃尾を地域外の人にも知ってもらう	栃尾の織物の歴史については、関係資料の保存がほとんどできていない。栃尾美術館での展示会も含めて、まず地域の方に知ってほしい
		大切なことは、織物技術を工芸として残すのか、産業として残すのかを各事業所の方向性を確認して進めていかなければならないと思う。栃尾の織物は時代によって変化しているファッション産業で利用されてきたので昔ながらの技法を特徴としている工芸品としての打出しは困難かと思う
		トチオーレ内に繊維織物の歴史ブースを設ける。(長岡花火資料館を参考にして地域外の人にも見てもらえるようなブースの設置)
		誰でも、いつでも、気軽に栃尾の織物を見て、手に取り買える所やいろいろな製品も販売をしている所の一角に歴史を伝える写真や道具を展示する。また、機織り機の体験や小物づくりの体験ができるなど、栃尾の織物の魅力が全て伝えられるような施設があるとよい
		今の状況を伝えることと、続けていける栃尾ならではの物をアピールして知ってもらう
		トチオーレの活用 常設で歴史や現状の産業を知ることができるような展示など(今代司酒造、スノーピーク、農作、メガネ会館 など 自社・自県の産業をうまく魅せている企業や産地を参考にしては?) (五泉 イベント:GOSEN KNIT FES 施設:ラポルテ五泉 LOOP& LOOP)
		栃尾の織物が使われた、ハイブランド製品や、デザイナーズ製品(+造形大、長岡美容専門学校などの未来のクリエイター)のファッションショー
		どんな最終製品に利用されているかを地域外の人に知ってもらい、地域の人には、地場産業を誇りに感じてもらう
		未来のクリエイターと共同で製品を作り、将来的な利用者候補に産地としてのブランド力を知ってもらい将来につなげる
		かざぜんの紬がNHKの美の壺で紹介され、きもの雑誌にも取り上げられているが、もっとPRしたほうが良い。紬などを展示して身近に感じられるようにする
		栃尾の繊維文化を伝えるコーナーの設置と「作って楽しむ・作って美しさを知る」体験教室の開催
		栃尾の繊維文化、歴史、現在を見て学習し、体験して楽しむ施設展示。小学生には学習の場として、住民には栃尾の織物への意識を高める場とする
		栃尾てまりの美しさ、すばらしさを伝える展示コーナーと住民向けてまり作り教室の開催
		栃尾紬の美しさ、すばらしさを伝える展示と体験コーナーを設置する
		おりなすに現在ある染色設備を用い、染色の体験をしてもらう。ハンカチやマフラーの絞り染めを体験してもらい、栃尾をPRする。織物組合、観光ガイド、絞り染め体験が一体となり、再度観光コースを確立する
		地域の宝として栃堀の貴渡神社(機神様)などの歴史を学習したり学校で教えていくとよい
おりなすの機械の前や入口に織機の音がする		
トチオーレなどで見える部分に布を使う		

栃尾の繊維産業について「アイデアシート」意見等一覧

区分	検討内容	具体的なアイデアなど(各委員から出された意見等)
	織物を交流人口や関係人口の拡大に生かす ・道の駅やトチオーレへの誘客 ・体験型観光への利用	栃尾地域以外の方が、道の駅で栃尾の織物に触れたり、購入等ができるようになるとういと思う。また、おりなすでやっている織物の講座なども、土日などで体験できるとよい。おりなすで講座の成果品を展示しているが、興味のある方も多いと思う。
		具体的に決まった内容を道の駅やトチオーレ、とちパルでアピールしたらどうか
		五泉や見附も含め、新潟の繊維業としてPR(協力体制関係作れるのであれば)
		自虐ネタ企画でのPR(地味布ランキング決定戦！みたいな企画)
		比礼カカシ ファッションショー
		定期的に布を使えるインパクトのあるモニュメントを作る
		燕三条の工場の祭典や柏崎東京電力の開かれた企業スタイルを参考に織物分野だけでなく栃尾地域の物づくりを見直して交流人口に繋げていく取り組みが必要かと思う
		織物まつりや展示即売会の開催
		新潟アニメ専門学校の生徒に打診し、繊維のキャラクターを発案してもらい、キャラクターを使用したYouTubeでの動画配信
		いろいろなものを持込OKでオリジナル(自分一つだけ)染色体験ができる催し等
		栃尾の生地をもっと手軽に買えるようにする。てまり、バッグ、つるしびな、パッチワークなどワークショップを多くし、製品の販売をする。機織り、着付け体験ができればよい
		織る人を育てるプロジェクトが必要
		フラダンス、民謡クラブ、詩吟など多くのサークルがある。その方々の衣装に栃尾生地を取り入れてもらう工夫、安価で提供することによって多くの方に利用していただく
		栃尾の繊維製品のよさを伝え、その場でお手ごろな値段で購入できるコーナーの設置。(特に、布地に特化することも考えられる)
観光用にてまりを作ったりしたらどうか。栃尾の糸で作る		

栃尾の繊維産業について「アイデアシート」意見等一覧

区分	検討内容	具体的なアイデアなど(各委員から出された意見等)
自由意見		栃尾の織物関係の資料収集と整理を急ぐべきであり、将来的にはおりなすのでまりホールなどで歴史と産業について展示できるようになるとよい。ぜひ進めてほしい
		自分の住んでいる場所や伝統文化をアピールした製品を作ったらいかがでしょうか
		一般の人からの認知としては、祭りや道の駅などで手を出しやすい状況を作るのは必要だと思うが、「技術力の認知」「製品の品質の高さ」が認知されていない状態で、「安く買える」という状況だけが認知されてしまうのは、産地としてのブランド力を下げる要因にもなる可能性があるため、「安く買える」だけにならないよう注意が必要のように思える。
		目的を意識したイベント企画:産地としての認知度を上げるという目的のイベントが開催されるのであれば、定期開催はもちろんのこと、「産地らしさ」を感じられるようなイベント内容で開催していかないと単発の展示即売会で終わってしまう危険があるように思う。イベントを企画されるのであれば、5年・10年先までイベントを続けることで「どうい織物産地」として認識されたいかがプロジェクトの共通認識として、企画段階から必要なのでは。(三条など、近隣に良い事例もあるので、イメージしやすい)
		現在の栃尾の織物は、工業製品としての織物という立ち位置のようなので、「各企業」の技術や製法で、どんな製品がつかれるかという何かしらの実績や製品を見せていくしか無いのではないかと(工業製品としてのトレーサビリティみたいなイメージでしょうか)
		超細番手の繊維が扱えるとか、特殊な柄がつかれるとか？染めなのか、織りなのか？加工や形状なのか、特殊技術なのか？はたまた、そういう新しいオーダーに柔軟にチャレンジしてくれることなのか？消費者目線で何が「なんでも」なのかわからない。栃尾の織物産業の「なんでも」が明確になれば、「織物産地」としても売りやすいのではないのでしょうか
		「とちパル」や「おりなす」で見れる範囲のモノが栃尾の織物製品だと思っていました。一般の人が見れるところにある栃尾の織物製品は、テキスタイルやアパレルとして、生地としては地味な印象で、服としては、一部極端に派手(パーティー衣装的?)な印象でした。今回、サンプルでみせていただいた生地は、明るい印象や鮮やかなカラーのものもあり、印象が変わったので、もっと一般に好まれやすい生地も見てみたいと思いました。(日常的に使えるような生地があることがわかれば、「使ってみたい」にもつながるのでは。)
		テキスタイルの展示会は、提示された写真のような展示が一般的なのかもしれませんが、ライフスタイル系の製品などの展示会では、各社見せ方などでブース自体にどうバイヤーさんを惹きつけるかを工夫されています。もっと見せ方でも「なんでもできる」の強みに興味を持ってもらえるような展示をされてもいいのでは？と思いました
		そもそも織物組合としては、「地域としてどういう産業になりたい」があるのか？その共通認識が無いと「産地」としてPRするのは難しいのではないのでしょうか。
		織物で何ができるかわからない。服地以外の素材にどのようなものがあるかわからない(ナイロン系の素材も活用できるのか)
		栃尾の地場産業である繊維産業は生地の産地であり消費者が対象ではないため製品の製造販売、いわゆる栃尾ブランドあるいは市内企業と連携して長岡ブランドの確立を目指し、生産性の向上、地域経済の活性化につなげるようになれば望ましい形であると考えます。ただし、転換を図るためには企業にそれなりのリスクが生じる
	現在の店の一角に生地や小物を販売している所もあるが、中途半端なことでは結果も中途半端になると思う。建物全てとかその階全てが栃尾の織物のみで力を入れたほうが良いと思う。そして若い人の目線でコンセプトを考え、発信していくことが必要だと思う。	
	とにかく若い人の力を生かすことが大切。若い人が参加できる取り組みを進めてほしいと思います。	